

## 三番瀬漁場再生事業の取組について(平成24年度実績・平成25年度)

事業名	3か年の目標	平成24年度実績	平成25年度
豊かな漁場への改善の取組	漁業者・地元市及び県の協力による漁場改善への取組, モニタリング調査を通じた漁場改善効果の把握	<ol style="list-style-type: none"> <li>覆砂による漁場改善 塩浜1丁目地先の人工干潟沖の海域へ, 君津市産の山砂2,998m<sup>3</sup>を約50cmの厚みで覆砂。</li> <li>漁場改善策と連携したモニタリング調査 ・流向・流速等調査(覆砂の前後と冬季に実施) ・底質・水質調査(底質は覆砂の前後, 水質は冬季に実施) ・生物調査(2ヶ月置きに実施)</li> <li>「三番瀬漁場再生事業連絡協議会」の運営支援</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>漁場改善策と連携したモニタリング調査 覆砂実施区画のモニタリング調査を継続</li> <li>「三番瀬漁場再生事業連絡協議会」の運営支援</li> </ol>
干潟漁場の環境保全	アオサやヒトデ, ツメタガイの回収除去など良好な干潟漁場環境づくりの推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>アオサ: 漁業者と連携し発生量モニタリング調査を実施(6~11月, 1回/月)。本年度の発生量は低レベルで推移し, 漁場環境への悪影響は軽微だった。</li> <li>ツメタガイの回収除去を実施。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>アオサ: 漁業者と連携し発生量モニタリング調査を継続(6~11月, 1回/月)。</li> <li>干潟漁場に悪影響を及ぼすアオサやヒトデ, ツメタガイの発生状況に応じた回収除去作業などの環境保全活動を推進。</li> </ol>
ノリ養殖対策	三番瀬の漁場特性・環境に対応した適切なノリ養殖管理技術の向上	<ol style="list-style-type: none"> <li>養殖施設の適正配置の指導・育苗期のノリ芽健全度調査, 生育状況の情報提供を実施</li> <li>10~12月にかけて場所別のノリ生長量・疾病発生状況調査を実施し, ノリ養殖管理技術の改善向上に向けた基礎データを収集・整理</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>養殖施設の適正配置の指導・育苗期のノリ芽健全度調査, 生育状況の情報提供を実施</li> <li>10~12月にかけて場所別のノリ生長量・疾病発生状況調査を実施し, ノリ養殖管理技術の改善向上に向けた基礎データを収集・整理</li> </ol>
貝類漁業対策	アサリの冬季減耗対策, 稚貝対策, ハマグリの資源培養, ホンビノスガイ資源の有効活用の推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>アサリの冬季減耗対策(被覆網による実証試験) 11月に三番瀬漁場の平成23年に覆砂した区画内で被覆網による実証試験を実施。12月から月1回の間隔で放流アサリ追跡調査実施するとともに, 流速計, 波高計を設置。</li> <li>ハマグリ資源培養 北部3組合が放流した区画内でハマグリの追跡調査を貝類資源調査と同様の方法・頻度(偶数月)で実施。</li> <li>ホンビノスガイ資源の有効活用の推進 平成24年の漁獲量は836トンで昨年の711トンを上回る。10月には稚貝が確認されている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>アサリの冬季減耗対策 被覆網による保護育成手法の普及。</li> <li>稚貝対策 稚貝の適地移植などの取組を支援。</li> <li>ハマグリ資源培養 組合が放流するハマグリの追跡調査を実施し, 放流適地を検討する。</li> <li>ホンビノスガイ資源の有効活用の推進 漁獲状況と資源動向のモニタリングを継続。</li> </ol>
貧酸素水塊情報の高度化	漁業者と共同で調査を実施し, 「貧酸素水塊分布予測システム」の運用による貧酸素水塊情報の提供の継続, 浅海域への湧昇を予測するシステムの開発に向けた取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>漁業者と共同の海洋観測による貧酸素水塊分布の情報発信(28回)</li> <li>予測システムの運用による貧酸素水塊分布予測の情報発信</li> <li>沿岸浅海域への貧酸素水塊の波及予測システムの開発 ・沿岸浅海域の貧酸素水塊分布実態の把握(5調査線上の5地点で, 6~11月に月3回程度実施) ・底生生物の分布実態・底質環境の把握(2定点で4月から毎月2~4回)(4調査線上の4地点で4月以降の隔月に1回実施) ・水産有用種の分布実態の把握(4月から毎月1回実施)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>漁業者と共同の海洋観測による貧酸素水塊分布の情報発信</li> <li>予測システムの運用による貧酸素水塊分布予測の情報発信</li> <li>沿岸浅海域への貧酸素水塊の波及予測システムの開発 ・沿岸浅海域貧酸素水塊予測システムの運用開始 ・水産有用種の分布実態の把握(4月から毎月1回実施)</li> </ol>